

このひとをじっくり探してみますか？

第12回

将来を嘱望されながらも夭折した女流日本画家【深谷市榛沢】

柳田さくら やなぎた さくら

(明治37年3月12日～昭和12年12月25日)



▲肖像写真(個人蔵)

柳田さくらは、明治三十七(一九〇四)年三月十二日、大里郡榛沢村(現在の深谷市榛沢)に生まれ、父柳田西五郎は漢学者、母は歌人、四歳年上の姉可づ良は書道家として活躍するなど、芸術・芸術に恵まれた家庭環境の中で育ちました。

治四十五(一九一二年)九歳の時、皇太子殿下の御前で揮毫する光栄に浴することができました。姉妹そろって御前揮毫することは、近隣にも全く例のないことで、村を挙げて祝福されました。書道で才能を見せたさくらは、その後、画道を目指すようになり、日本画家である江森天壽に入門します。これより、さくらは、書道よりも画道を志し、日本画家としての道を歩んでいくこととなります。

天壽は頻りに柳田家を訪れて指導していたので、両親はより画道に精進できる環境を整えるため、画房を建てました。熊谷高等女学校(現在の県立熊谷女子高等学校)を卒業し



▲朝顔(個人蔵)

▲少女(個人蔵)

てからは、さらに本格的に絵画修業に励みます。天壽はさくらに非凡な才能を認め、中央画壇で活躍する荒木十畝への入門を推薦、さくらは十畝にも師事し、この頃から『櫻花』の雅号を称するようになりました。

しが感じられます。そして、画房を訪れた多くの近隣の人々に、恵比寿や大黒天、二宮尊徳の画を描き贈ったことから、それらの作品は現在も北武蔵一帯に多く遺されていると言われています。

将来を嘱望され、いずれば中央画壇に名を連ねることになったと思われるさくらですが、昭和十二(一九三七年)小田原に滞在しているところ、病にかかり、八方手を尽くしましたが、その甲斐なく三十三歳の若くして亡くなりました。

用語の手引き

『御前揮毫』

皇族や貴族の前で毛筆で文字や絵を描くこと

『雅号』

文人・画家・書家などが、本名のほかにつける風雅な名前のこと

※本コーナーの全編を通じて、登場する人物については、歴史上の人物としてその敬称を略します。また、年齢については、当時の通例に従い数え年の表記とします。

市長の深い話

深谷市長 小島 進



防犯に関する情報発信

昨年9月に熊谷市で起きた痛ましい事件を受け、防犯に関する情報発信について、さまざまな議論が巻き起こりました。

事件が起きた熊谷市では、真っ先に自治体、警察、地元自治会が『犯罪情報の住民提供等に関する協定』を締結し、行政、警察、住民が一体となり地域の安全確保に取り組みこととなりました。そして県内各市においても、熊谷市の取り組みをモデルとし、同様の協定が締結され始めました。

深谷市でも熊谷市の事件の後、犯人が逃走する事件が発生し、警察などからの情報提供を受け、防

災行政無線で市民への情報発信を行いました。当時は、情報発信の明確な基準がありませんでしたが、緊急を要するため防災行政無線での情報発信に踏み切りました。その後、関係機関と協議を重ね、2月16日に犯罪から地域住民を守り、住民生活の安全・安心のため、『深谷市犯罪情報の住民提供等に関する協定』を締結しました(11ページ参照)。

協定では、それぞれの機関の連絡窓口を明確にし、対象の事案ごとに対応措置を区分し、より多くの手段で情報発信を行うこととしました。

今後も警察など連絡を密にし、さまざまな媒体を使いながら情報提供をしていきます。ぜひ皆さんも、いろいろな手段で情報を手に入れ、自身や家族の安全を守るために役立ててください。

また、市では防災行政無線を聞き逃したり、聞き取りづらかったら向けて、防災行政無線の内容をメールで配信しています。パソコン・携帯電話・スマートフォンをお持ちのかたは、深谷市のメール配信サービスに登録し、活用してください。

ありがとうの手紙

優秀賞

一般の部
二十歳を迎えた娘たちへ

小前田 戸野倉和美 さん

成人式の朝、美容室で髪を結ってもらっている娘たちの後ろ姿を眺めていたら、20年間の生い立ちが走馬灯のように浮かび、目頭がとても熱くなりました。

4分違いで産まれた二人の娘たち。中学3年生の時、不意に同じ病気を発症しましたね。投薬、治療法、手術、入院期間、全てが一緒に一卵性の驚異を実感しました。不安ななか、毎日のように通った岩槻の病院。長い道のりでしたね。

二人の素敵な振袖姿を見る事ができ、幸せです。ありがとうね。

優秀賞

一般の部
子供たちへ

上柴町東 野俣美恵 さん

- ㊦ あいさつは自分からしましょう。
- ㊧ リビングは自分の部屋じゃありません。責任持って片付けます。
- ㊨ 学校は休み時間だけでなく、勉強ももう少し張り切ってください。
- ㊩ 友達大切にしましょう。
- ㊪ うそはつかず、素直に謝れるようになって下さい。毎日口うるさい母ですが、いつも君達の事を想っています。君達と過ごす時間は宝物です。君達が大好きなのでうざがられてもめげません。母の所に産まれてきてくれてありがとう。